

計画資料 1 市域を流下する一級河川

河川名	上流端 〈概略現行町名〉	下流端	市内流路延長(m)		市内経過地	水系名
			左岸	右岸		
庄内川	恵那市	海	37,430	20,260	守山区、北区、 西区、中村区、 中川区、港区	庄内川
矢田川	瀬戸市 (海上川の合流点)	庄内川への 合流点	12,600	12,520	守山区、千種区、 東区、北区、 西区、名東区	〃
守山川	守山区菱池町 (苗代橋流過点)	矢田川への 合流点	2,736	2,736	守山区	〃
香流川	長久手市 (前熊川の合流点)	〃	4,300	5,100	守山区、名東区、 千種区	〃
隅除川	左 守山区御膳洞 右 守山区弁天が丘 (弁天洞橋流過点)	〃	1,895	1,895	守山区	〃
天神川	尾張旭市 (平池からの流出点)	〃	1,000	1,000	守山区	〃
新川	左 西区大野木 右 北区落合町 (庄内川からの分派点)	海	17,700	14,500	北区、西区、 中川区、港区	〃
水場川	北名古屋市	新川への 合流点	1,760	1,760	西区	〃
合瀬川	犬山市	〃	440	0	北区	〃
大山川	小牧市 (狐洞川の合流点)	〃	730	447	北区	〃
新地藏川	春日井市 (地藏川からの分派点)	〃	3,400	3,400	北区	〃
堀川	左 守山区瀬古二丁目 右 守山区川西二丁目 (庄内川からの分派点)	海	16,200	16,200	守山区、北区、 西区、中区、 中村区、中川区、 熱田区、港区、南区	〃
新堀川	中区千代田一丁目 (掘留処理場地先)	堀川への 合流点	5,950	5,950	中区、昭和区、 熱田区、瑞穂区、 南区	〃
八田川	小牧市	庄内川への 合流点	0	1,050	北区	〃
長戸川	左 守山区大字下志段味 字新林 右 守山区大字下志段味 字長根 (長戸橋流過点)	〃	1,199	1,199	守山区	〃
野添川	守山区大字上志段味 字東谷 (笥池流出点)	〃	1,687	1,687	守山区	〃

【共通編 第1章 第4節 本市の概況】

計画資料 2 市域を流下する二級河川

河川名	上流端 〈概略現行町名〉	下流端	市内流路延長(m)		市内経過地	水系名
			左岸	右岸		
山崎川	左 千種区東山通1丁目 右 千種区末盛通5丁目 (本山交差点上流)	海	11,519	11,573	千種区、昭和三区、 瑞穂区、南区	山崎川
天白川	日進市	海	11,790	13,290	天白区、瑞穂区、 南区、緑区	天白川
扇川	緑区藤塚二丁目 (大池含む)	天白川への 合流点	9,835	9,835	緑区	〃
大高川	左 緑区忠治山 右 緑区大高町字坊主山 (水主が池流出点)	扇川への 合流点	2,880	2,880	緑区	〃
瀬木川	左 緑区大高町字銭瓶谷 右 緑区大高町字下西峡 (定納山調節池吐口下流17m)	大高川への 合流点	1,040	1,040	緑区	〃
手越川	緑区有松 (新田名古屋線暗渠西北方30m)	扇川への 合流点	1,985	1,985	緑区	〃
藤川	左 緑区古鳴海一丁目 右 天白区野並三丁目 (藤川橋含む)	天白川への 合流点	565	565	天白区、緑区	〃
植田川	左 名東区猪高町大字高針 字前田 右 名東区神里二丁目 (高針橋流過点)	〃	4,790	4,790	名東区、天白区	〃
繁盛川	日進市 (荒池流出点)	〃	2,050	0	天白区	〃
鞍流瀬川	左 大府市 右 緑区有松町大字桶狭間 字野末 (東海道新幹線横過部下流)	石ヶ瀬川 への合流点	0	250	緑区	境川
日光川	江南市	海	6,360	0	港区	日光川
戸田川	左 中川区富田町大字服部 字鶴ノ首 右 中川区富田町大字戸田 字上川田 (服部川合流点)	日光川への 合流点	7,150	7,150	中川区、港区	〃
福田川	稲沢市	〃	5,540	3,210	中川区、港区	〃
蟹江川	あま市	〃	250	0	港区	〃

【共通編 第1章 第4節 本市の概況】

河川名	上流端 〈概略現行町名〉	下流端	市内流路延長(m)		市内経過地	水系名
			左岸	右岸		
守山川	守山区太田井 (隅除川右岸堤法尻)	一級河川 上流端	666	666	守山区	庄内川
千種台川	千種区星が丘山手 (東山新池流出点)	矢田川への 合流点	3,520	3,520	千種区	〃
藤の木川	左 名東区朝日が丘 右 長久手市 (名長橋上流)	香流川への 合流点	1,177	555	名東区	〃
森孝川	守山区森孝東二丁目 (長久手市境)	〃	442	442	守山区	〃
隅除川	左 尾張旭市 右 守山区御膳洞	一級河川 上流端	859	859	守山区	〃
久田良木川	左 北区喜惣治二丁目 右 北名古屋市	大山川への 合流点	118	0	北区	〃
境川	左 北区北久手町 右 豊山町 (境橋含む)	新地藏川 への合流点	2,250	1,500	北区	〃
生棚川	左 北区六が池町 右 春日井市 (春日井市境)	〃	2,850	2,600	北区	〃
白沢川	守山区小幡北 (白沢橋含む)	庄内川への 合流点	1,014	1,014	守山区	〃
長戸川	守山区大字下志段味 字吉田 (海老蔓池流出点)	一級河川 上流端	867	867	守山区	〃
大矢川	守山区大字上志段味 字東谷 (石捨池流出点)	庄内川への 合流点	1,143	1,143	守山区	〃
五軒家川	昭和区隼人町 (隼人池流出点)	山崎川への 合流点	1,040	1,040	昭和区	山崎川
山崎川	千種区池上町1丁目 (猫が洞池堰堤下)	二級河川 上流端	1,160	1,160	千種区	〃

計画資料 3 市域を流下する準用河川(2/2)

河川名	上流端 〈概略現行町名〉	下流端	市内流路延長(m)		市内経過地	水系名
			左岸	右岸		
瀬木川	左 緑区定納山一丁目 右 緑区大高町字下西峡 (大府市境)	二級河川 上流端	183	183	緑区	天白川
旭出川	緑区潮見が丘二丁目 (旭出六号橋含む)	扇川への 合流点	727	727	緑区	〃
水広下川	緑区鳴海町字大清水 (開渠上流端)	扇川への 合流点	985	985	緑区	〃
細口川	緑区鳴丘二丁目 (素掘上流端)	扇川への 合流点	563	563	緑区	〃
神沢川	左 緑区鳴海町字神沢 右 緑区黒沢台二丁目 (神沢池含む)	〃	1,200	1,200	緑区	〃
藤川	天白区久方三丁目 (戸笠池流出点)	〃	2,283	2,283	緑区、天白区	〃
前川	名東区新宿二丁目 (牧野が池流出点)	植田川への 合流点	1,063	1,063	名東区	〃
植田川	左 名東区猪高町 大字上社字井堀 右 長久手市 (長久手市境・函渠内)	二級河川 上流端	4,343	3,919	名東区	〃
大根川	天白区原三丁目 (大根池流出点)	天白川への 合流点	679	679	天白区	〃
忠兵衛川	天白区平針南一丁目 (細口池流出点)	〃	1,872	1,872	天白区	〃
鞍流瀬川	左 緑区桶狭間 右 緑区有松町 大字桶狭間字巻山 (桶狭間大池含む)	〃	1,452	1,933	緑区	境川
東ノ川	緑区桶狭間上の山 (東ノ池含む)	鞍流瀬川 への合流点	494	494	緑区	〃
東小川	港区川園三丁目 (新川園橋上流)	日光川への 合流点	680	680	港区	日光川
戸田川	中川区富田町大字千音寺 字中地 (宮田用水分水工)	二級河川 上流端	1,944	1,944	中川区	〃

【共通編 第1章 第4節 本市の概況】

河川名 水路名	上流端	下流端	市内 流路 延長 (m)	市内経過地	水系名
東山幹線排水路	東山上池流出点	東山新池流入点	607	千種区	庄内川
八前川	左 千種区京命二丁目 右 千種区京命一丁目 (開渠上流端)	香流川合流点	412	千種区	〃
天神下川	左 千種区香流橋二丁目 右 千種区東千種台	矢田川合流点	718	千種区	〃
新生棚川	北区桐畑町 (春日井市境)	新地蔵川合流点	1,170	北区	〃
深沢川	守山区深沢一丁目 (開渠上流端)	庄内川合流点	143	守山区	〃
白鳥川	守山区上志段味東谷 (東谷池流出点)	庄内川合流点	560	守山区	〃
荒子川	左 中川区八田町 右 中川区花池町1丁目 (横井排水路合流点)	荒子川ポンプ所 吐出口	6,714	中川区, 港区	荒子川
中川運河(幹線) ※名古屋港 管理組合管理	左 中川区広川町 右 中川区月島町 (小栗橋)	左 港区熱田前新田 右 港区中川本町 (中川橋)	6,390	中川区, 港区	中川 運河
鏡池排水路	千種区宮東町 (鏡池流出点)	二級山崎川合流点	951	千種区	山崎川
楠元排水路	千種区自由ヶ丘2丁目	姫が池幹線合流点	1,864	千種区	〃
新池排水路	千種区新池町4丁目	準用山崎川合流点	1,150	千種区	〃
橋本排水路	千種区東明町7丁目	新池排水路合流点	1,092	千種区	〃
大江川	左 南区元塩町6丁目 右 南区元塩町4丁目 (函渠上流端)	左 南区滝春町 右 港区本星崎町 (臨港線下流)	2,341	南区	大江川
太鼓田川	左 緑区青山四丁目 右 緑区大高町上小川 (開渠上流端)	二級手越川合流点	881	緑区	天白川
中平部川	緑区緑花台 (西鱒池流出点)	二級手越川合流点	1,757	緑区	〃
手越川	左 豊明市 右 緑区境松一丁目 (豊明市境)	二級区間上流端	1,022	緑区	〃
旭出川	左 緑区旭出二丁目 右 緑区鹿山三丁目 (旭出三丁目境)	準用区間上流端	1,306	緑区	〃
滝ノ水川	左 緑区滝の水二丁目 右 緑区滝の水二丁目 (開渠上流端)	扇川合流点	1,291	緑区	〃
郷下川	天白区保呂町 (保呂公園南方50m)	二級藤川合流点	2,254	天白区	〃
地蔵川	天白区島田四丁目 (島田新池流出点)	天白川合流点	762	天白区	〃
八事裏川	昭和区八事富士見 (千種区境)	二級植田川合流点	2,019	天白区	〃
前川	左 名東区大針一丁目 右 名東区極楽五丁目 (極楽交差点西南角)	二級植田川合流点	1,166	名東区	〃
鞍流瀬川支川	左 緑区桶狭間北二丁目 右 緑区桶狭間巻山 (地蔵池南方70m)	二級鞍流瀬川 合流点	2,357	緑区	境川
服部川	左 中川区吉津三丁目 右 中川区服部一丁目 (開渠上流端)	二級戸田川合流点	1,231	中川区	日光川

【共通編 第1章 第4節 本市の概況】

計画資料 5 名古屋の気候表（平年値）

名古屋

要素	気温			降水量								
	平均 (°C)	日最高 (°C)	日最低 (°C)	合計 (mm)	各階級の日数							
					≥0.0mm	≥0.5mm	≥1.0mm	≥10.0mm	≥30.0mm	≥50.0mm	≥70.0mm	≥100.0mm
統計期間	1991～ 2020											
資料年数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
1月	4.8	9.3	1.1	50.8	18.2	6.3	5.2	2.0	0.3	0.1	0.0	0.0
2月	5.5	10.5	1.4	64.7	15.3	7.2	6.2	2.3	0.3	0.1	0.0	0.0
3月	9.2	14.5	4.6	116.2	16.5	9.8	8.8	4.3	1.1	0.1	0.0	0.0
4月	14.6	20.1	9.7	127.5	15.6	10.4	9.4	4.5	1.1	0.2	0.0	0.0
5月	19.4	24.6	14.9	150.3	16.0	10.7	9.7	5.1	1.4	0.4	0.2	0.0
6月	23.0	27.6	19.4	186.5	18.6	12.7	11.6	5.9	2.1	0.7	0.0	0.0
7月	26.9	31.4	23.5	211.4	20.4	13.0	12.0	6.0	2.3	1.1	0.3	0.1
8月	28.2	33.2	24.7	139.5	18.4	9.4	8.5	3.7	1.8	0.6	0.2	0.1
9月	24.5	29.1	21.0	231.6	18.0	11.9	10.5	5.6	2.4	0.9	0.6	0.3
10月	18.6	23.3	14.8	164.7	15.5	10.0	9.0	4.4	1.8	0.6	0.4	0.1
11月	12.6	17.3	8.6	79.1	14.9	7.0	6.1	2.7	0.6	0.2	0.1	0.1
12月	7.2	11.7	3.4	56.6	17.8	7.5	6.2	1.9	0.3	0.0	0.0	0.0
年	16.2	21.1	12.3	1578.9	205.0	115.9	103.2	48.5	15.4	5.0	1.9	0.6

名古屋

要素	風向・風速						大気現象		
	平均風速 (m/s)	最多風向	各階級の日数				雪日数	霧日数	雷日数
			≥10.0m/s	≥15.0m/s	≥20.0m/s	≥30.0m/s			
統計期間	1991～ 2020								
資料年数	30	30	30	30	30	30	30	30	30
1月	3.1	北北西	1.9	0.0	0.0	0.0	5.4	0.4	0.1
2月	3.4	北北西	2.2	0.0	0.0	0.0	4.8	0.3	0.1
3月	3.5	北北西	4.1	0.0	0.0	0.0	1.7	0.7	0.3
4月	3.3	北北西	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.8
5月	3.1	北北西	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.2
6月	2.7	南南東	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.9
7月	2.8	南南東	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	4.0
8月	2.9	南南東	0.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2
9月	2.8	北北西	1.4	0.3	0.1	0.0	0.0	0.2	2.9
10月	2.7	北北西	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.8
11月	2.6	北北西	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5
12月	2.9	北北西	1.4	0.0	0.0	0.0	2.8	0.4	0.2
年	3.0	北北西	19.6	0.5	0.1	0.0	14.7	4.0	18.0

【共通編 第1章 第4節 本市の概況】

要素		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間	統計期間
気温	日最高気温の高い値 (°C)	21.0	23.5	25.8	30.5	34.8	37.9	39.6	40.3	38.0	32.7	27.2	22.6	40.3	1891～2022
	年	1969	2016	1945	1922	1958	2022	2018	2018	2010	1961	1923	2015	2018	
	起日	27	14	31	28	31	30	23	3	4	1	1	11	8 3	
	日最低気温の低い値 (°C)	-10.3	-9.5	-6.8	-2.1	2.8	8.2	14.0	14.4	9.5	1.5	-2.7	-7.2	-10.3	1891～2022
	年	1927	1895	1934	1941	1945	1921	1908	1956	1916	1926	1891	1917	1927	
	起日	24	22	6	8	7	4	4	20	30	31	28	27	1 24	
降水量	日降水量 (mm)	55.5	101.0	95.8	104.6	100.0	187.7	176.2	202.0	428.0	170.0	116.5	76.5	428.0	1891～2022
	年	2003	1922	1903	1908	1907	1940	1952	1971	2000	2017	1991	2006	2000	
	起日	27	16	15	23	30	17	11	30	11	22	28	26	9 11	
	日最大1時間降水量 (mm)	17.5	20.0	25.4	44.0	37.0	53.0	92.0	84.0	97.0	67.0	39.0	19.5	97.0	1891～2022
	年	2002	1993	1903	1908	2022	1894	1919	2008	2000	2009	2009	2004	2000	
	起日	21	21	31	23	27	13	18	29	11	8	11	5	9 11	
	日最大10分間降水量 (mm)	8.5	9.0	8.9	12.5	16.0	18.5	30.0	23.0	29.0	20.0	12.4	10.5	30.0	1937～2022
	年	2002	1979	1939	2012	2022	2014	2013	1941	1988	2009	1946	1992	2013	
	起日	21	23	11	3	2	6	25	24	20	8	27	8	7 25	
風速	日最大風速 (m/s)	17.5	18.0	17.7	18.0	17.6	19.8	16.9	23.3	37.0	20.8	15.5	18.0	37.0	1891～2022
	同風向	NW	NW	NNW	S	WNW	SW	SE	SSE	SSE	SSE	NW	WNW	SSE	
	年	1941	1955	1954	1923	1939	1923	1918	1962	1959	1955	1960	1949	1959	
	起日	20	28	29	8	21	22	12	26	26	20	3	14	9 26	
	日最大瞬間風速 (m/s)	27.8	26.3	25.6	28.6	26.1	33.6	28.5	38.8	45.7	36.4	26.4	27.7	45.7	1937～2022
	同風向	NW	NW	WNW	SSE	NNW	SSE	ESE	SSE	SSE	SSE	NW	S	SSE	
	年	1941	1941	1979	2012	1988	2004	1972	1962	1959	1979	1982	2004	1959	
	起日	20	22	31	3	13	21	15	26	26	1	24	5	9 26	

計画資料 7 東海地方に接近した台風の数 (1/2)

資料提供：名古屋地方気象台

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	台風番号
1951 昭和26							3			1			4	6, 7, 8, 15
1952 27						1		1					2	2, 7
1953 28						1		2	1				4	2, 5, 6, 13
1954 29								2	2				4	5, 6, 14, 15
1955 30							2			3			5	9, 11, 23, 25, 26
1956 31								1	1				2	9, 15
1957 32								1	2				3	9, 10, 14
1958 33							1	1	2				4	11, 17, 21, 22
1959 34								2	1	2			5	6, 7, 15, 16, 18
1960 35								5					5	11, 12, 14, 16, 18
1961 36									1	1			2	18, 24
1962 37							1	3					4	7, 12, 13, 14
1963 38						2	1	1					4	2, 3, 6, 11
1964 39								1	1				2	14, 20
1965 40					1			1	3				5	6, 17, 23, 24, 26
1966 41						1		1	3	1			6	4, 14, 19, 24, 26, 28
1967 42								1		1			2	18, 34
1968 43							2	2					4	3, 4, 7, 10
1969 44								2		1			3	7, 9, 12
1970 45							1	2					3	2, 9, 12
1971 46							1	1	2				4	13, 23, 25, 29
1972 47							1	1	1	1			4	6, 13, 20, 22
1973 48							1						1	6
1974 49								1	2				3	14, 16, 18
1975 50								1		1			2	6, 13
1976 51													0	
1977 52								1	1				2	8, 11
1978 53								3	1				4	7, 8, 13, 18
1979 54									2	3			4	12, *16, 18, 20
1980 55					1					1			2	3, 19
1981 56						1		1		1			3	5, 15, 24
1982 57								1	1				2	10, 18
1983 58								2		1			3	5, 6, 13
1984 59													0	
1985 60						1	1	1	1				3	*6, 12, 14
1986 61							1	1	1				3	8, 10, 15
1987 62							1	1		1			3	7, 10, 19
1988 63								3		1			4	8, 11, 13, 24
1989 平成元								2	1				3	13, 17, 22
1990 2								2	2	1	1		6	10, 11, 19, 20, 21, 28
1991 3								1	4	1			6	14, 15, 17, 18, 19, 21
1992 4						1	1	2					3	*3, 9, 10
1993 5							1	1	2	1			5	4, 11, 13, 14, 20
1994 6									2				2	21, 26
1995 7									2				2	12, 14
1996 8							2	1	1				4	5, 6, 12, 17
1997 9						2	1		1				4	7, 8, 9, 19
1998 10									3	1			4	5, 7, 8, 10
1999 11									1				1	16
2000 12							1						1	3

計画資料 7 東海地方に接近した台風の数 (2/2)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	台風番号
2001 平成13								1	2	1			4	11, 15, 17, 21
2002 14							2	1	0	1				6, 7, 13, 21
2003 15								1	1				2	10, 15
2004 16					1	2	1	2	2	2			10	2, 4, 6, 10, 11, 16, 18, 21, 22, 23
2005 17							1	1	1				3	7, 11, 17
2006 18								1					1	7
2007 19							1		1	1			3	4, 9, 20
2008 20								1	1				2	11, 13
2009 21								2		2			4	9, 11, 18, 20
2010 22								1	1	1			3	4, 9, 14
2011 23					1		1		2				4	2, 6, 12, 15
2012 24						1			1	1			2	4, *17
2013 25									1	2			3	18, 22, 26
2014 26							1	1		2			4	8, 11, 18, 19
2015 27							1		1				2	11, 18
2016 28								2	1	1			4	7, 9, 16, 18
2017 29							1	1	1	2			5	3, 5, 18, 21, 22
2018 30							1	2	2	1			5	12, 13, 20, 21, *24
2019 平成31 年・令 和元年						1	1	1	1	1			5	3, 6, 10, 15, 19
2020 2									1	1			2	12, 14
2021 3								2	1				3	9, 10, 14
2022 4								1	2				3	8, 14, 15
30年平均 (1991-2020)				0.1	0.2	0.6	0.8	1.2	0.7			3.5		

(注1) *印は2つの月にまたがって接近した台風があることを示す。よって、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しません。

(注2) 「東海地方に接近」とは、台風の中心が愛知・静岡・岐阜・三重の各県内の気象官署(气象台・特別地域気象観測所)のいずれかから300km以内に入ることをいう。

【共通編 第1章 第4節 本市の概況】

計画資料 8 主な風水害（伊勢湾台風以降）

年月日 (名称)	現象	名古屋地方気象台における気象観測記録					被害の概要（名古屋市内）
		最大 風速 (m/s)	最大 瞬間 風速 (m/s)	総 降水量 (mm)	最大 1時間 降水量 (mm)	最大 10分間 降水量 (mm)	
昭和34. 9. 26 (伊勢湾台風)	大雨 強風 高潮	37.0 SSE	45.7 SSE	131.0	24.4	8.2	死者1,793、行方不明58 負傷者40,528 床上浸水34,883、床下浸水32,469 全壊6,166、半壊43,249 流出1,557
昭和36. 6. 23 ～29 (昭和36年梅雨前線豪雨)	大雨	10.5 SSE (27日)	14.0 SSE (27日)	397.5	20.0 (27日)	5.7 (27日)	床上浸水2,752、床下浸水53,387
昭和36. 9. 15 ～16 (第2室戸台風)	大雨 強風	28.7 SSE (16日)	42.0 SSE (16日)	93.3	26.3 (15日)	8.4 (15日)	死者1、負傷者47 床上浸水16、床下浸水561 全壊73、半壊211
昭和45. 7. 30	大雨	7.7 ENE	11.3 E	123.5	63.0	16.5	死者3、負傷者4 床上浸水4,452、床下浸水35,068 全壊2、半壊6
昭和46. 8. 30 ～31 (台風第23号)	大雨	10.0 E (30日)	19.5 ESE (31日)	321.5	34.5 (30日)	16.5 (30日)	床上浸水2,599、床下浸水25,813 全壊3、半壊9
昭和46. 9. 26 (台風第29号)	大雨	11.2 NNW	16.8 NNW	162.0	92.0	20.5	床上浸水3,291、床下浸水60,842 半壊3
昭和47. 9. 16 ～17 (台風第20号)	大雨 強風	26.3 SE (16日)	40.4 SE (16日)	71.0	10.5 (16日)	4.5 (16日)	死者1、負傷者9 床上浸水86、床下浸水480 全壊8、半壊80
昭和49. 7. 24 ～25	大雨	9.0 SE (25日)	14.1 SE (25日)	130.0	26.5 (25日)	8.0 (25日)	床上浸水2,884、床下浸水40,463 半壊1
昭和51. 9. 8 ～14 (台風第17号)	大雨 強風	10.2 SE (13日)	18.1 SE (13日)	422.5	44.0 (12日)	10.5 (12日)	床上浸水3,610、床下浸水62,959 半壊217
昭和54. 9. 24 ～25	大雨	6.0 SSE (24日)	9.5 SSE (24日)	105.5	56.0 (24日)	13.5 (24日)	床上浸水1,613、床下浸水30,290 道路損壊28、堤防損壊5 土砂流出34
昭和55. 8. 26 ～27	大雨	6.9 SSE (26日)	15.3 WNW (27日)	142.5	62.0 (26日)	21.0 (27日)	床上浸水413、床下浸水13,028 半壊1
昭和57. 8. 8	大雨	7.2 NNE	12.3 NNE	52.0	33.0	7.0	床上浸水398、床下浸水14,131
昭和58. 9. 28 (台風第10号)	大雨	9.5 N	17.2 S	166.0	72.5	19.5	死者4 床上浸水672、床下浸水15,291 道路損壊22、堤防損壊11
昭和62. 9. 25	大雨	8.8 NW	14.4 NNW	118.5	75.0	17.5	床上浸水127、床下浸水2,380
平成3. 9. 18 ～19 (台風第18号)	大雨	7.7 WNW (19日)	14.3 WNW (19日)	242.0	62.0 (19日)	14.5 (19日)	床上浸水1,955、床下浸水6,731 全壊1 道路損壊18、堤防損壊29
平成6. 9. 15 ～18	大雨	7.4 SE (17日)	16.7 SE (17日)	197.0	53.0 (17日)	15.0 (17日)	床上浸水105、床下浸水3,462 道路損壊9
平成10. 9. 21 ～22 (台風第7,8号)	大雨 強風	21.5 SSE (22日)	42.6 SSE (22日)	67.5	10.5 (21日)	4.5 (21日)	死者2、負傷者56 半壊4 床上浸水1
平成12. 9. 11 ～12 (台風第14号・前線)	大雨	6.9 N (12日)	12.2 S (11日)	566.5	97.0 (11日)	26.0 (11日)	死者4、負傷者47 床上浸水9,818、床下浸水21,852 全壊4、半壊98
平成16. 9. 5 ～6	大雨	6.0 S (6日)	12.3 SSE (6日)	137.0	52.5 (6日)	18.5 (6日)	床上浸水250、床下浸水1,584
平成20. 8. 28 ～29	大雨	7.0 NNW (28日)	10.7 NNW (28日)	202.0	84.0 (29日)	19.5 (29日)	半壊1 床上浸水1,175、床下浸水9,929
平成23. 9. 19 ～21	大雨	12.2 N	22.0 N	274.0	45.5	19.5	死者3、負傷者7 一部破損1、床上浸水61、床下浸水317

(注1) 名古屋市内の被害が判明している風水害のうち、死者1人以上、床上浸水30棟以上、全壊10棟以上のいずれかの被害が発生したものを掲載した。

(注2) 被害の概要は名古屋市発表、気象観測記録は名古屋地方気象台発表の数値である。

(注3) 総降水量は、期間内の日降水量の合計である。

【共通編 第1章 第4節 本市の概況】

計画資料 9 台風情報の解説

台風情報は、台風及び 24 時間以内に台風になると予想される熱帯低気圧の実況と予報からなる。

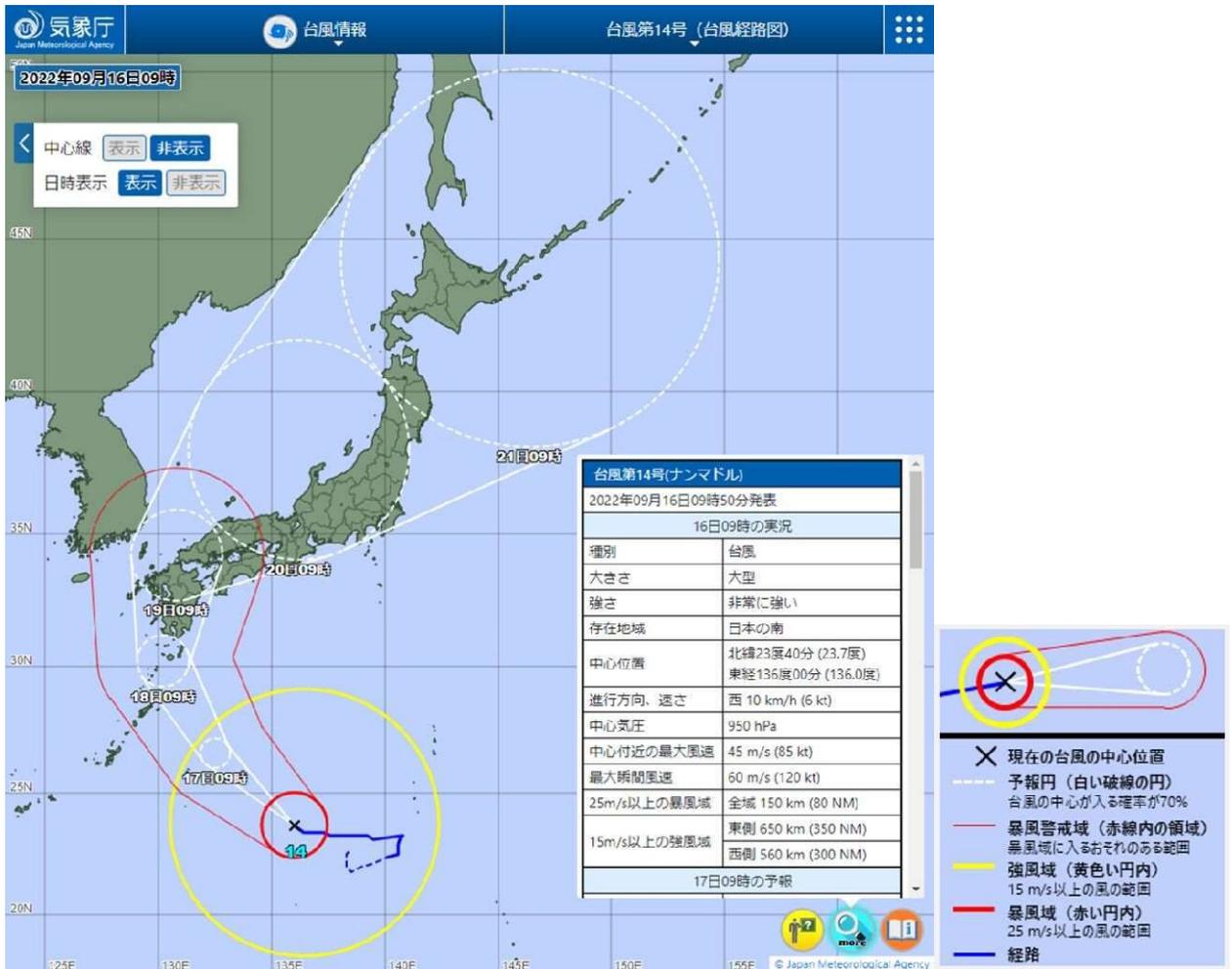
台風情報の実況は、台風の中心位置、進行方向と速度、中心気圧、中心付近の最大風速（10 分間平均）、最大瞬間風速、暴風域、強風域を示す。

台風情報の予報は、1 日（24 時間）先までの 12 時間刻みの予報を 3 時間ごとに発表する。さらに 5 日（120 時間）先までの 24 時間刻みの予報を 6 時間ごとに発表し、台風の中心位置（予報円の中心と半径）、進行方向と速度、中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域を示す。

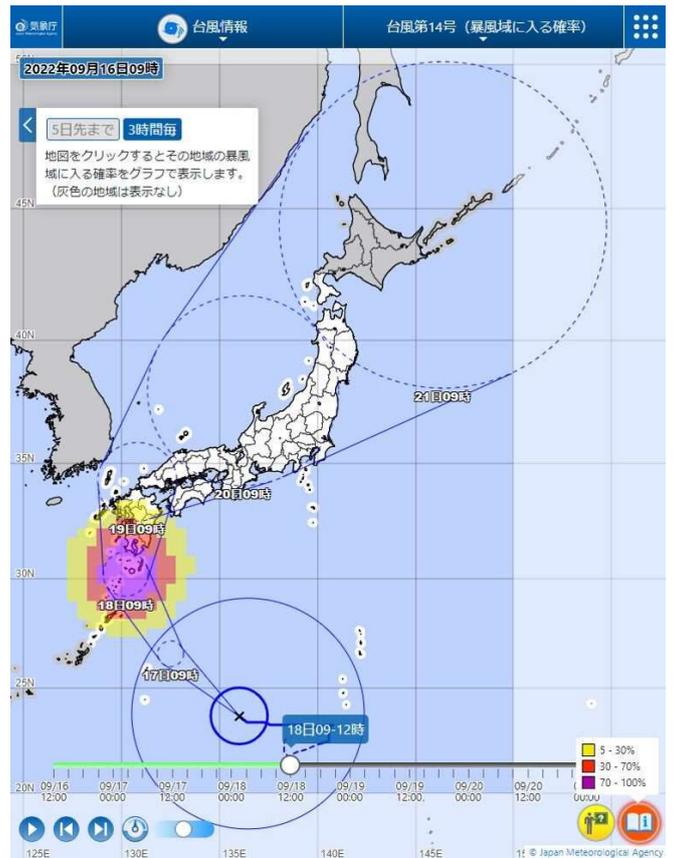
また、台風の暴風域に入る確率情報も 5 日先（120 時間）まで表示する。

台風情報の表示例

台風経路図（実況と 5 日先までの予想）



暴風域に入る確率の分布図（左：5日先まで、右：3時間ごと）



(参考)

強 風 域：台風の周辺で、平均風速が 15m/s 以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性のある領域。

暴 風 域：台風の周辺で、平均風速が 25m/s 以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性のある領域。

予 報 円：台風の中心が予報時刻に到達すると予想される範囲を円で示したもの。
台風の中心が予報円に入る確率はおおよそ 70%。

暴風警戒域：台風の中心が予報円内に進んだときに、暴風域に入るおそれがある領域。

計画資料 10 災害の種類^(1/6)

(1) 気象災害

ア 風 害

風害には、台風・竜巻などを原因とする強風が建築物等を破壊したりする強風害のほか、海上から多量の塩分粒子を陸上に運び植物を枯らしたりする塩風害、非常に乾燥した風が吹き植物を枯らす乾風害などがあるが、ここでは強風害について述べる。

風が物体に与える力（風圧）は風速の2乗に比例するため、風が強くなると、その破壊力は急激に増加する。強風の原因となる主な現象には、台風、温帯低気圧、前線、竜巻などがある。

(ア) 台 風

戦後の日本における最大の風水害は昭和34年の伊勢湾台風によるもので、記録的な高潮（後述）と暴風が原因である。この時の名古屋における最大風速・最大瞬間風速は、平成13年末現在も観測開始以来第1位の記録である。東海地方に台風が接近するのは8月と9月が多い。強風害の原因として最も多いのが台風である。

台風の風は、台風の眼を中心に反時計回りに吹いている。台風の進行方向右側の風は移動による相対的な風が加わって強く、左側ではその逆の効果を受けて弱くなるのが通常である。つまり台風が北上しているという状況では、台風が愛知県の西側を通るときは南～南東の風が強くなり、台風が愛知県の東側を通るときは、西～北西の風が弱めになる。この西～北西の風は、陸上を渡ってくるために地形・地物の摩擦でさらに弱まり台風が西方を通過する場合の南～南東の風に比べてかなり弱い。名古屋で最大風速20m/s以上を観測した台風は、中心がごく近くを通った場合を除けば、すべて名古屋の西側を北上している。

近年で、風が特に強かった台風としては、平成10年9月22日に和歌山県北部に上陸し、富山市付近から日本海に抜けた台風第7号があげられる。この台風により名古屋では、最大風速は南南東21.5m/s、最大瞬間風速は南南東42.6m/sを観測した。

(イ) 温帯低気圧・前線

低気圧が日本海で急速に発達するような場合、発達した温帯低気圧が通過するような場合に風速が20m/sに達することがある。この強風は広域・長時間にわたって吹くことがある。また、活発な寒冷前線が通過する際には突風が発生することがある。

(ウ) 竜 巻

竜巻は、積雲または積乱雲の雲底から垂れ下がる漏斗状の雲を伴う激しい渦巻であり、局地的なスケールでは最も破壊的な気象現象である。風速は50～80m/sに達することもある。愛知県では7～9月の夏季に多く発生する。県内各地で発生しているが、東三河南部地方での発生が多くなっている。

近年では、平成11年9月24日に約2時間の間に県内で4個の竜巻が相次いで発生した。この内、豊橋市で発生した竜巻は消滅までに約19km移動し、負傷者400人以上、住家の全半壊300棟以上などの大きな被害が発生した。

計画資料 10 災害の種類(2/6)

イ 水 害

水害には、河川の流量が増大したり河川の水が堤防を越えあるいは堤防が決壊して河道外に氾濫する洪水害、大雨による地表水の増加に排水が追いつかず下水溝等があふれる浸水害、山地等の斜面が崩壊する山がけ崩れ害などがある。近年は、河川の改修等が進み洪水害が減少する一方で、舗装面の増加等により短時間強雨による浸水害が増加している。大雨の原因となる主な現象には、台風、停滞前線などがある。

(ア) 台 風

台風が日本のはるか南の海上にあっても、日本付近には暖かく湿った空気が南方から多量に流れ込むため、日本付近に前線があると活動が活発になり大雨を降らせることがある。台風が接近すると台風自身の雨雲により強い雨を降らせる。

台風が愛知県の西方を北上するときは、南よりの風になり、東三河北部などの山地では地形の影響で雨量が増加する。伊勢湾台風の例では、9月25～26日の総降水量は、三河湾沿岸地方で70～100mm、東三河地方では220～320mmとなっており、地域によって降水量に4倍以上の差があった。

平成12年9月11日から12日にかけての愛知県の記録的な大雨は、遠く離れた台風が日本付近の前線を活発化させた典型的な例である。台風第14号は沖縄県の南大東島付近を西に進んでいたが動きは遅く、暖かく湿った空気が長時間にわたり東海地方に流れ込んだ。このため本州付近にあった停滞前線は活動が非常に活発となった。11～12日の県内各地の総降水量は、名古屋566.5mm、東海589mmなど各地で300mmを超えた。11日の名古屋の日降水量は428.0mmで従来の極値240.1mm(1896年9月9日)を大きく更新した。日最大1時間降水量も名古屋で97.0mm、東海で114mm記録し、それぞれ従来の極値を更新した。

(イ) 停滞前線

愛知県での記録的な大雨は、台風を除くとほとんど梅雨前線や秋雨前線といった停滞前線によって起きている。停滞前線による雨は台風に伴う雨と異なり長時間にわたって降り続けるのが特徴である。

停滞前線による大雨は台風による大雨と同じ程度の頻度で発生し、「昭和36年梅雨前線豪雨」や「昭和47年7月豪雨」等では台風に劣らぬ被害が発生している。梅雨期は通常から河川の水位が高くなっていることがあるので、流域に大雨が降るとたちまち警戒水位を超えることがある。

(ウ) その他

夏季において北太平洋高気圧がやや後退し、寒冷前線が南下してくるような場合に前線上に発生する熱界雷は、局地的に豪雨を降らせることがある。

ウ 高潮害

高潮は、台風や低気圧圏内の強風によって海水が吹き寄せられることと、気圧低下によって海面が吸い上げられることによって海水面が異常に高くなる現象である。

計画資料 10 災害の種類(3/6)

高潮は湾口が広くて深く、湾奥ほど狭まって浅くなっているような湾で発生しやすく、伊勢湾はこの条件を満たしている。台風が愛知県の西方を北上するとき風は南よりとなり、伊勢湾は海水の吹き寄せが湾奥に向かうため、吹き寄せ効果が最も大きくなる。三河湾は湾口が狭いが、南～南西風が強く吹くと北岸や東岸にはとくに顕著な高潮が現われる。

伊勢湾台風は日本における高潮の最高記録を作ったが、愛知県では過去にもこのような高潮にたびたび見舞われており、風害の項で述べたような大型台風はいずれも高潮を伴っている。近年では平成10年9月22日に台風第7号により、名古屋港で最大偏差+110cmを記録したが、幸い被害は発生しなかった。

(2) 火災

過去において第2次世界大戦及び濃尾大地震時の大火災等の特殊条件下の火災を除いては、特別記録に残るような大火災は発生していないが、名古屋臨海工業地帯を中心とした重化学工業の発展に伴って多くの危険物・高圧ガス・毒劇物等の施設が設置されており、これらの施設が地震等のため破壊された場合は、想像以上の大火災が発生することも予想される。

(3) 交通災害

列車、自動車の転覆、衝突、船舶の沈没、衝突及び航空機の不時着、墜落等による大規模な交通災害は、交通量の激増、交通施設の大型化、スピード化にともない、いったん発生するとその被害は甚大となる。

(4) その他の災害

前記以外の災害で、多数の人命、財産に影響を及ぼすものをいう。

計画資料 10 災害の種類(4/6)

【参考解説表】

雨の強さと降り方

(名古屋地方気象台)

1時間雨量(ミリ)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10~20	やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声が良く聞き取れない。	地面一面に水たまりができる。	
20~30	強い雨	どしゃ降り。				ワイパーを速くしても見づらい。
30~50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	傘をさしていてもぬれる。		道路が川のようになる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)。
50~80	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。	傘は全く役に立たなくなる。	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	車の運転は危険
80~	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

(注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

風の強さと吹き方

(名古屋地方気象台)

風の強さ(予報用語)	平均風速(m/s)	およその時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその瞬間風速(m/s)
やや強い風	10以上15未満	~50km	一般道路の自動車	風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	種(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上20未満	~70km		風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	30
非常に強い風	20以上25未満	~90km	高速道路の自動車	何かにつかまっていけないと立っただけで倒れるおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常の速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	40
	25以上30未満	~110km		固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。			50	
猛烈な風	30以上35未満	~125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	60
	35以上40未満	~140km					住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	
	40以上	140km~						

(注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。
 (注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。
 (注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。
 1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なることがあります。
 2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
 3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

計画資料 10 災害の種類 (5/6)

噴火警戒レベルが運用されている火山

種別	名称	対象範囲	噴火警戒レベル (キーワード)	火山活動の状況
特別 警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域及び それより火口側	レベル5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態と予想される。
			レベル4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性が高まってきていると予想される。
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から居住地域 近くまでの広い範囲 の火口周辺	レベル3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
			レベル2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
予報	噴火予報	火口内等	レベル1 (活火山であることに 留意)	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。

(噴火警戒レベルが提要されている火山)



噴火警戒レベルが運用されていない火山

種別	名称	対象範囲	警戒事項等 (キーワード)	火山活動の状況
特別 警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域及び それより火口側	居住地域及び それより火口側の範囲にお ける嚴重な警戒 居住地域嚴重警戒	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から居住地域 近くまでの広い範囲 の火口周辺	火口から居住地近くまでの 広い範囲の火口周辺にお ける警戒 入山危険	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
			火口から少し離れた所まで の火口周辺	火口から少し離れた所まで の火口周辺における警戒 火口周辺危険
予報	噴火予報	火口内等	活火山であることに 留意	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。

計画資料 10 災害の種類(6/6)

降灰量階級表

名称	表現例			影響ととるべき行動		その他の影響
	厚さ キーワード	イメージ※1		人	道路	
		路面	視界			
多量	1mm 以上 【外出を控える】	完全に覆われる 	視界不良となる 	外出を控える 慢性の喘息や慢性閉塞性肺疾患(肺気腫など)が悪化し健康な人でも目・鼻・のど・呼吸器などの異常を訴える人が出始める	運転を控える 降ってくる火山灰や積もった火山灰をまきあげて視界不良となり、通行規制や速度制限等の影響が生じる	がいしへの火山灰付着による停電発生や上水道の水質低下及び給水停止のおそれがある
やや多量	0.1mm ≤ 厚さ < 1mm 【注意】	白線が見えにくい 	明らかに降っている 	マスク等で防護 喘息患者や呼吸器疾患を持つ人は症状悪化のおそれがある	徐行運転する 短時間で強く降る場合は視界不良の恐れがある 道路の白線が見えなくなるおそれがある(およそ0.1~0.2mmで鹿児島市は除灰作業を開始)	稲などの農作物が収穫できなくなった ^{※2} 、鉄道のポイント故障等により運転見合わせのおそれがある
少量	0.1mm 未満	うっすら積もる 	降っているのがようやくわかる	窓を閉める 火山灰が衣服や身体に付着する 目に入ったときは痛みを伴う	フロントガラスの除灰 火山灰がフロントガラスなどに付着し、視界不良の原因となるおそれがある	航空機の運航不可 ^{※2}

※1 掲載写真は気象庁、鹿児島市、(株)南日本新聞社による
 ※2 富士山ハザードマップ検討委員会(2004)による想定